

草原の里100選 2023年に選定された草原の里

Report

本誌 68 号の「草原の里 100 選」特集の続編として、2023 年に選定された 14 の里を紹介しします（図、表）。2022 年には少なかった東日本から多くの里が選ばれました。霧ヶ峰や菅平（No.8、9）など比較的規模の大きな草原も含まれています。草原維持の主な目的は前回同様、観光型、自然再生型が多いですが、東北地方には住民がワラビを採ったり、ワラビ園を運営したりするワラビ園型が 2 つ（No.2、3）ありました。火入れをしている里は 9 つ（64%）あり、ボランティアを受け入れているのは 2 つでした。岩手県には南部馬を放牧する文化を継承し地域づくりに活用しようとしている里（No.1）、長崎県には羊を放牧し、キャンプ場の草地維持を試みている里（No.12）がありました。草原を地域づくりの資源とする多様な取組みが注目されます。

（浦山 佳恵／自然環境部）

草地面積

- ~10ha
- 10~100ha
- 100~1,000ha
- 1000~10,000ha

応募主体

- 市町村、地区
- 任意団体
- 協議会
- その他

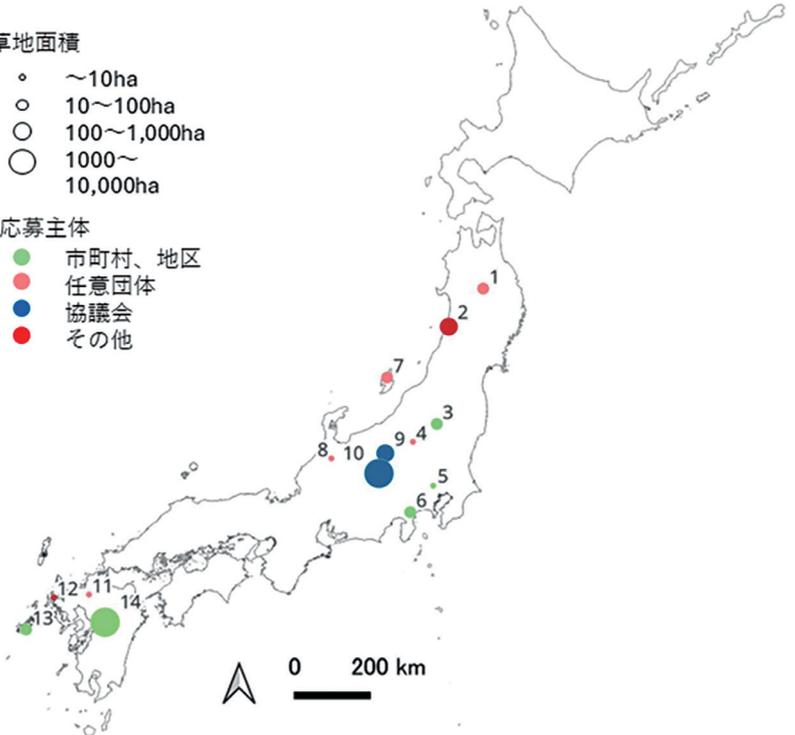


図. 2023 年に選定された草原の里

『未来に残したい日本の草原 2023』を用いて作成。番号は表に対応。

表. 2023 年に選定された草原の里の概況

No	草原の里	市町村名	応募者	目的の 類型	火入れ		農畜産利用				環境保全・再生活動						
					主体	ボラン ティア	放牧	飼料	肥料	茅	希少種 生息	草刈り	雑木 処理	外来種 駆除	シカ害 防除	モニタ リング	
1	安比高原・遊々の森	八幡平市	任意団体	E	任意団体	○	○					○	○	○			
2	冬師湿原	にかほ市	牧野組合	F	住民												
3	鉄山	南会津町	地区	F	住民							○	○				○
4	玉原湿原	沼田市	任意団体	D											○	○	○
5	田島ヶ原サクラソウ自生地	さいたま市	市町村	C	市町村							○	○		○		○
6	箱根の仙石原	箱根市	市町村	B	住民							○	○			○	○
7	ドンデン高原	佐渡市	任意団体	B								○	○				
8	五箇山相倉茅場	南砺市	任意団体	E					○	○		○	○				
9	菅平高原・峰の原高原	上田市、須坂市	協議会	C	組合		○					○	○	○			○
10	霧ヶ峰	諏訪市、茅野市、下諏訪町	協議会	C								○	○	○	○	○	○
11	基山の草原	基山町	任意団体	B	市町村							○	○				
12	中瀬草原	平戸市	企業	B			○	○				○					
13	鬼岳	五島市	市町村	B	市町村							○					○
14	阿蘇・西原村	西原村	市町村	A	住民	○	○	○	○			○	○				
						9	2	4	2	2	1	8	12	5	3	3	7

※ A：農畜産型、B：観光型、C：自然再生型、D：教育型、E：伝統文化型、F：ワラビ園型
『未来に残したい日本の草原 2023』を用いて作成。

